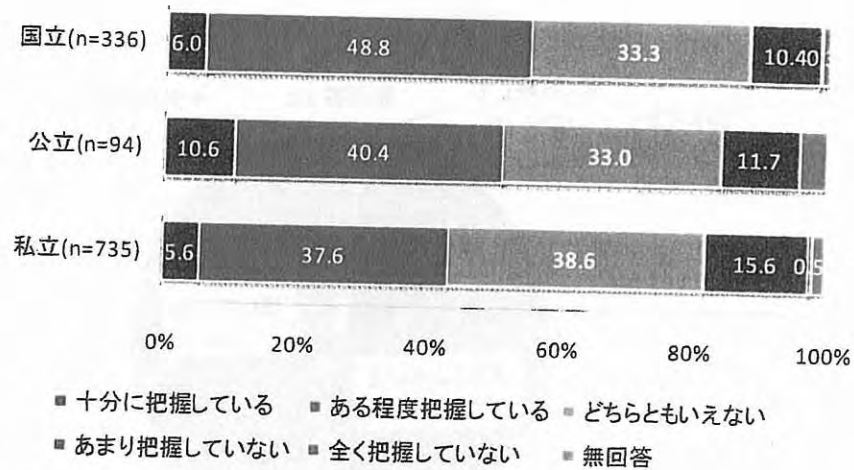


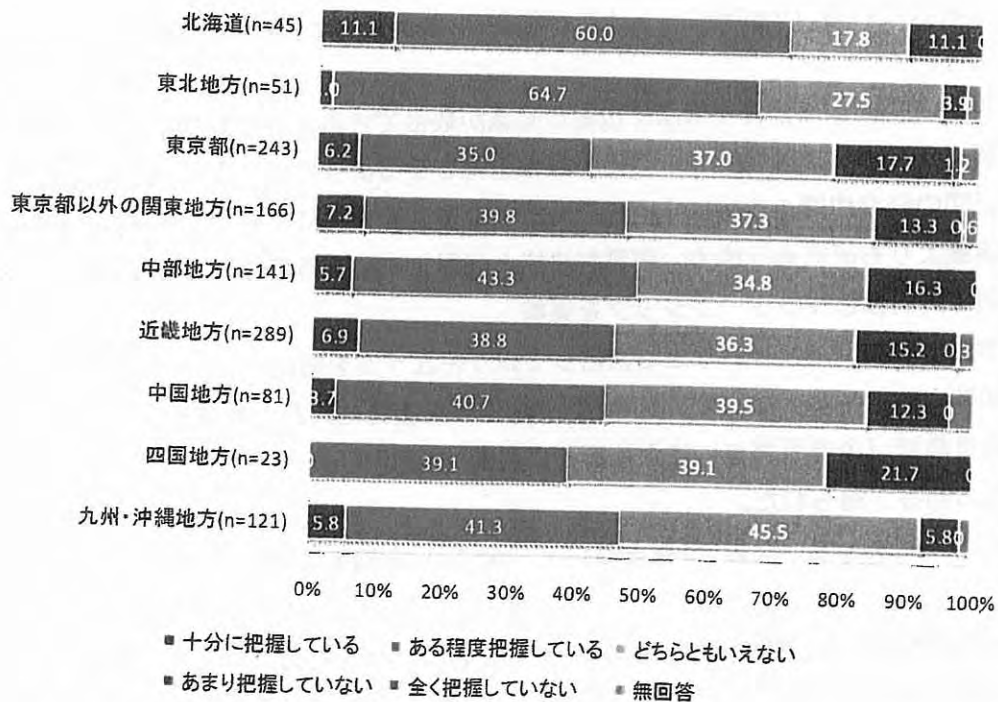
・実社会が博士課程修了者を必要にしているのか不明な点が多い
 など社会ニーズに対する疑問の意見もみられた。

次に、大学の設置区別に人材ニーズの把握状況をみると、どの区分もほぼ同様の傾向を示している。



図Ⅲ-18 大学の設置区別博士課程修了者に求める人材ニーズの把握(%)

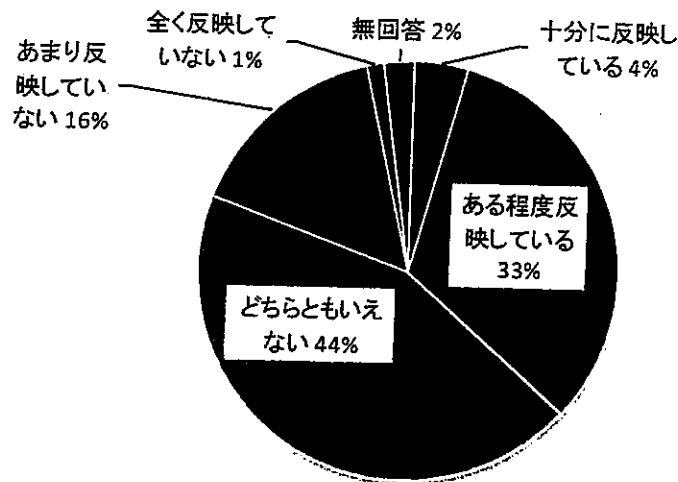
また、大学院の所在地別に人材ニーズの把握状況をみると、九州・沖縄地方で「どちらともいえない」という回答割合が他の地域よりも多く、「あまり把握していない」とする回答割合は他の地域より少なくなっている。



図Ⅲ-19 大学の設置区別博士課程修了者に求める人材ニーズの把握(%)

3.1 人材ニーズに対応するメニューのカリキュラムへの反映

社会が大学院博士課程修了者に求める人材ニーズに応えるためのメニューが教育カリキュラムの中に反映されているかどうかについては、反映している（「十分に」＋「ある程度」）という回答は37%にとどまり、「どちらともいえない」が44%、反映していない（「あまり」＋「全く」）という回答が17%であった。人材ニーズに対応するメニューをカリキュラムに反映する取り組みはまだ十分には進んでいない状況である。



図Ⅲ-20 人材ニーズに対応するメニューのカリキュラムへの反映(n=1165)

反映している（「十分に」＋「ある程度」）と回答した人に具体的な反映の方法を尋ねたところ、

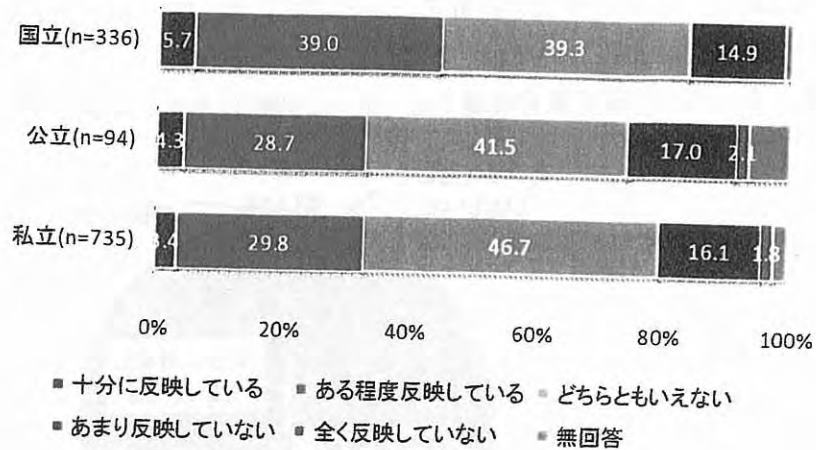
- ・ 専門に特化した教育ではなく広範な知識が取得できるようにカリキュラムを編成
- ・ 関連する企業の研究開発の基礎知識を習得させるようにカリキュラムを編成
- ・ 民間の研究機関を含めて学内外の施設等で論文テーマに従事できる機会を提供
- ・ 講義よりも研究遂行能力、問題解決能力を鍛える研究指導中心のカリキュラムを編成
- ・ 副専門研修とインターンシップを実施
- ・ 学生からのアンケートなども活用してカリキュラムを編成
- ・ 即戦力的な意味ではなく、10年後、20年後を視野に入れた教育を実施
- ・ 客員教授（企業所属者）による講義の整備

などの回答が得られた。

また、反映していない（「あまり」＋「全く」）と回答した人にはその理由を尋ねているが、

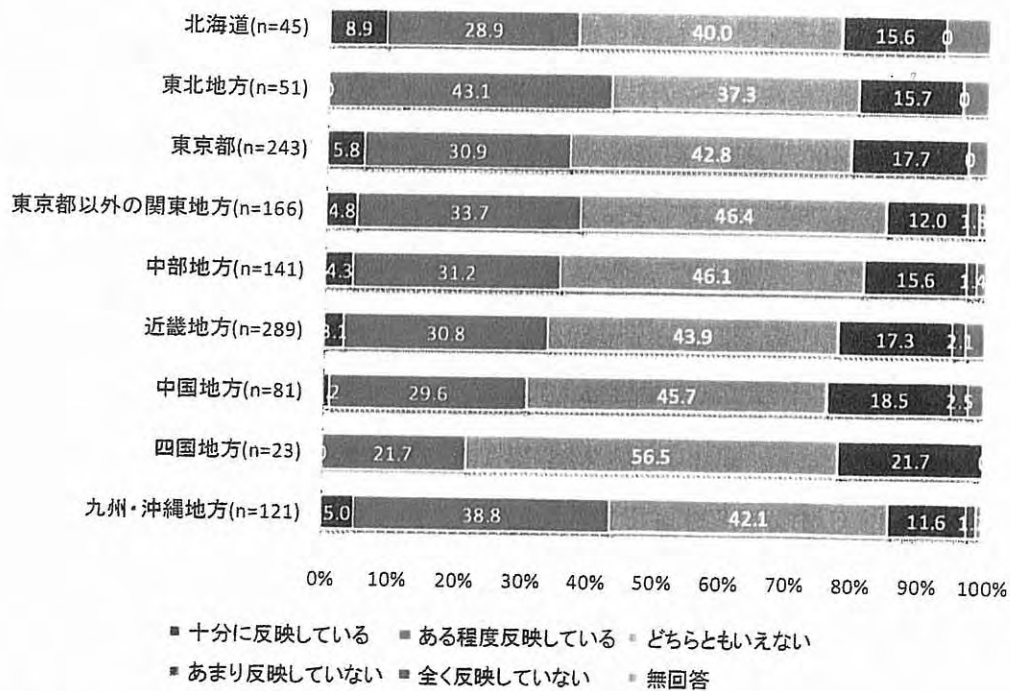
- ・ 専門的知識および研究方法の体得に主眼をおいているため
 - ・ 研究者養成を主目的にしているため
- などの回答ほかに、
- ・ 企業のニーズがわからないから
 - ・ ニーズ自体が具体的でないので特別のメニューが考えにくいから
- など、ニーズ把握が十分でないことに起因する回答もみられた。

大学の設置区分別の人材ニーズに対応するメニューのカリキュラムへの反映については、各区分ともに同じような傾向を示し、意味のある差は見受けられない。



図Ⅲ- 21 大学の設置区分別人材ニーズに対応するメニューのカリキュラムへの反映(%)

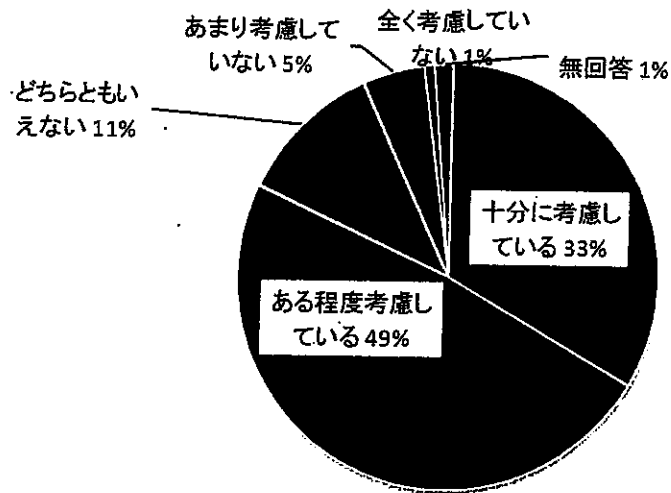
大学院の所在地別の人材ニーズに対応するメニューのカリキュラムへの反映についても、大学の設置区分別の場合と同様に、各地域ともに同じような傾向を示し、意味のある差は見受けられない。



図Ⅲ- 22 大学院の所在地別人材ニーズに対応するメニューのカリキュラムへの反映(%)

3.2 進路を考慮した研究テーマの設定

博士課程（後期）学生の研究テーマの設定に関して、修了後の進路について考慮がなされているかどうかについては、考慮している（「十分に」＋「ある程度」）という割合が82%であった。多くの研究教育現場では、テーマ設定に学生の進路が考慮されているといえる。



図Ⅲ-23 進路を考慮した研究テーマの設定(n=1165)